



チェーリア・バルトリの新作CDのランチ・パーティ。前半は緑色のドレスで ©Decca-Mike Narsesian



バルトリのCDとシンクロされた庭園での花火ショー ©Decca-Mike Narsesian



本物のバロック庭園の残るミュンヘン郊外のシュライスハイム城。コンサート会場 ©Decca-Mike Narsesian



ミュンヘンの伝統的なビール祭り「オクトーバーフェスト」風の衣装

取材・文 中東生

夢のような宴！バロック庭園の残る、シュライスハイム城でコンサート

新作CDランチ・パーティ

2012年9月17日、ミュンヘン郊外のシュライスハイム城でチェーリア・バルトリの新作CDのランチ・パーティが催された。ドイツに2つしか残っていないという本物のバロック庭園を眺めながらの歓談の後、チェーリア・バルトリのコンサート会場となる城の踊り場へと階段を上る。客席最後部からモンキータンバリンを手に登場したバルトリは、緑色のドレスを纏い、いつものように輝く太陽のようだったが、最初は何か違和感を感じた。お城中共鳴してしまうような過剰なエコーに邪魔され、バルトリの声の芯を必死に探しながら聴いていた。彼女自身も、その余剰残響のなかで戦いながら、ピュアな響きを探っていたように思えた。しかし、2曲目の静寂のなかにどんどん浸っていくうちに、ミクロの世界までピタッと合ったような共鳴点が見つかった。その時の背筋がゾクとするような感覚がバルトリの狙

いだったのでろう。それをきっかけに、聴衆全員が過去の周波数に合わされてしまったように、現在は忘れ去られていた作曲家アゴスティーノ・ステツファニが活躍した17世紀にタイムトリップした。

コンサートの後、ミュンヘンの伝統的なビール祭り「オクトーバーフェスト」風の衣装にお色直しをしたバルトリと共に、ディナーに舌鼓を打つ。そして、肌寒くなった庭園へ移動すると、バルトリのCDとシンクロされた豪華な花火ショーが披露され、やっと現代に引き戻された。バルトリを取り囲む大勢の招待客がだんだん姿を消していく、こつて夢のように宴が終わった。

17世紀のヨーロッパをまたにかけて、音楽家としてだけでなく、宗教家や政治家としても活躍したステツファニを現代に蘇らせる使命を背負ったCD『ミッション』のコンサートツアーは10月19日にミュンヘンから始まり、欧州11カ国を回る。特に12月3日のスカラ座公演ではバレンボイムが指揮棒を取り、スカラ座管弦楽団と共演する。バルトリは、自分をスターダムに引き上げてくれたバレンボイムと久しぶりに共演できることがとても嬉しい、とイタリアの新聞記者に語っていた。